

女性の経済的自立が最も進んでいるのはフランス 「シノベイト 女性の経済的自立に関する調査」

グローバル・マーケティング・リサーチ会社のシノベイトは、2008年12月、世界12ヶ国(日本を含まず)の9,000名を対象に、女性の経済的自立に関する意識調査を実施いたしました。

主な調査結果

- 1) 経済的自立が最も進んでいるのはフランス女性
- 2) 「経済的自立」=金銭面で夫やパートナーに頼らないこと
- 3) 男性は一家の大黒柱、財布の紐を握るのは女性
- 4) 女性は男性より家計に責任を感じている
- 5) カード使用率が低いのはインドネシア、ブルガリア、マレーシア



◆調査概要

実施機関: シノベイト 実施時期: 2008年12月

対象国(12カ国): オーストラリア、ブラジル、ブルガリア、カナダ、フランス、インドネシア、マレーシア、メキシコ、オランダ、南アフリカ、イギリス、アメリカ

対象者: 9,000名(女性4,500名/男性4,500名)

1) 経済的自立が最も進んでいるのはフランス女性

女性の多くが社会で働くようになってまだ何十年も経っておらず、世界のすべての国で、程度の違いこそあれ、男女平等に関してまだ取り組まれていない問題が残されている。しかし、この調査では12ヶ国で、およそ10人中6人の女性(58%)が自分は経済的に自立していると思っていることがわかった。

最も自立しているのがフランス女性で、80%が自分自身を経済的に自立していると答え、英国(76%)、南アフリカ(69%)がそれに続いた。

シノベイトフランスでマネージングディレクターをつとめるティエリー・パイユは、フランス女性がトップであることに驚きはないとして、次のように語る。「フランス女性は、長年、自分のお金を自分で管理してきたし、多くの場合、家族全体のお金も管理してきたのです。」

経済的に自立していると思う女性が最も少ないのがブルガリア(37%が経済的に自立していると答えた)とインドネシア(47%)であった。全体として、先進国の方が新興国よりも、自分自身が経済的に自立していると思う女性の割合が大きかった(先進国:68% vs. 新興国:51%)。

シノベイトアメリカ、金融サービス部門のバイス・プレジデント、クレア・ブレイバーマンは、アメリカ人女性の経済的自立に関する自己認識は、非常に興味をそそると述べる。

「64%のアメリカ人女性が経済的に自立していると感じているということは、3分の1の女性はそう思っていないということになります。自立精神を誇りとする国なのに、これは驚きです。三つの理由が考えられます。まず、アメリカ人女性は経済的自立が意味することについて期待するものが他の国よりも大きいのでしょう。二つ目は、結婚している女性の多くが、進んで家計の支配権を男性に譲っていることがあります。そして最後に、驚くほど多くの女性(多くの場合、シングル・マザー)が経済的に危険な状況にいるということです。」

さらに、面白いのが南アフリカの状況である。南アフリカは比較的最近、民主化がなされた国で、今回の調査では6つの新興国の内の一つに入るが、明らかに自立した女性の多い国なのだ。10人中7人が自分は経済的に自立していると答え、この結果は今回調査を行った多くの先進国よりも高い。

シノベイト南アフリカの金融サービス・ディレクターのデビー・アムは以下のように述べる。「この結果は、今回の対象者の大部分が都市部に住む女性だったことにもよりますが、文化的、歴史的観点からの理由も見逃せません。」

「南アフリカが民主化された時、非常に強く明確に男女平等が打ち出されました。女性がキャリアを積んだり、仕事につく機会を与えることが促進されたのです。黒人、白人、両方の歴史において、女性は自分自身と家族の面倒を見られるように、自立しなくてはなりません。この自立の必要性がこの国の女性に企業家的な考え方を生み出したのです。」

2) 経済的自立＝「金銭面で夫やパートナーに頼らないこと」

経済的自立と言っても人によって意味するものは様々であろう。調査では、対象者に「経済的自立」という言葉が意味するものをひとつ選んでもらったところ、最も多い回答は「金銭面で夫やパートナーに頼らないこと」であった。

元気なフランス人女性は、最も多くの対象者が経済的自立はパートナーに金銭面で頼らないこととイコールであると答え(68%)、オランダとイギリスの女性がそれに続いた(どちらも51%)。

調査を実施した全12ヶ国のトップ3の回答は以下の通りである:

- ・ 1位 (41%) — 経済的自立とは、金銭面で夫やパートナーに頼らないこと
- ・ 2位 (30%) — 経済的自立とは、借金なしで暮らすこと
- ・ 3位 (18%) — 経済的自立とは、自分の欲しいものを、費用を心配せずに手に入れることができること

「借金なしで暮らす」を最も多く回答したのは、マレーシア(42%)とメキシコ(40%)であった。

ブルガリアでは、際立って高い42%が経済的自立とは「自分の欲しいものを、費用を心配せずに手に入れられること」と答えた。この数字は他の国の2倍以上である(マレーシア以外)。

シノベイトブルガリアのマネージングディレクターであるストイヤン・ミハロフは以下のように説明している。「ブルガリアでは、夫も妻も両方も平等に一家を支える稼ぎ手であるというのが一般的です。同時に、女性は家事にも責任があります。これには主に二つの理由があります。一つには、社会主義時代、男女は収入面で全く平等でした。社会主義終焉後、収入は男性に有利に変化しましたが、生活水準の低下が女性の社会進出を促し、結果として、男女共に働くという形態がそのまま残ることとなったのです。これらすべての時代を通して、女性は家事に責任を持ちました。」

「このようなことから、ブルガリアの女性にとって、経済的な自立とは、収入を持ってくる夫からの自由ではなく、家族の幸福のために個人的にお金を使う自由、費用を気にせずに必要なもの、欲しいものを手に入れることができる自由なのです。」

3) 男性は一家の大黒柱、財布の紐を握るのは女性

「マイ・ビッグ・ファット・ウェディング」でレイニー・カザンが演じた強い女家長はこう言っていた。「いいかい、トゥーラ、男は頭だけれど、女は首なんだよ。そして、首は頭を自分の向きたい方に向けることができるんだ。」きっと多くの家庭がこのように営まれているのだ。調査ではさらに家計における男性の役割について、男性、女性それぞれの意識を調べた。

家計の最も核になるものは家であり、シノベイトの調査では全体で43%の女性が「男性は家のローンや家賃の支払いに責任がある」という文章に、「そう思う」と回答した。同じことを男性の対象者に尋ねたところ、53%の男性が「そう思う」と答え、男性は女性よりも、自分たちが家のローンや家賃の支払いに責任があると考えていることが明らかになった。

当然、国によって大きな違いが見られた。目立った違いは以下の通りである:

- インドネシアでは、83%の男性および、82%の女性がこの文章に「そう思う」と回答
- オランダでは、15%の男性と7%の女性のみがこの文章に「そう思う」と回答
- イギリスでは男性48%、女性15%が、「そう思う」と回答
- 同様に、フランスでは47%の男性が自分たちは責任があると答えたのに対し、女性は18%のみだった
- オーストラリアでは、34%の男性と、12%の女性が「そう思う」と回答

調査では、家族を食べさせることに男性は責任があるかという質問にも同様の結果が出た。58%の男性と、38%の女性が「そう思う」と答えた。調査が行われた国のうち、アジアの2カ国では最もその回答率が高い。インドネシアでは全体の87%、マレーシアでは全体の73%が家族を食べさせるのは男性の責任だと答えた。

シンペイトマレーシアのマネージングディレクターをつとめるスティーブ・マーフィはこう語る。「この結果は男性が家族の大黒柱と考えられているマレーシアの伝統的な状況を示しています。男性の役割は非常に早期に、しっかりと確立されて、ずっと変わらないのです。もちろんこれは、女性は全くお金に関わっていないわけではありません。多くの場合、マレーシアの女性は財布のひもを握っているのです。」

同様に、「男性は妻やパートナーの経済的なニーズに応える責任があるか」という質問に対して、より伝統的な文化を持つ国の方が「そう思う」と答える対象者が多かった。全対象者の51%、性別では男性の57%、女性の45%が「そう思う」と回答した。

インドネシアでは、ほぼ全対象者に近い95%の男性および女性対象者が「そう思う」と答えたことについて、シンペイトインドネシアのマネージングディレクターであるロビー・スサチョは以下のように説明している。

「これは100%文化的な問題です。何世紀もの間、女性は賃金を支払われる仕事に従事せず、生活のために外で働くということがありませんでした。都市に住むインドネシア人が広範囲に整備された銀行システムを使い始めるようになったごく最近まで、夫はすべての収入を妻に渡して、彼女たちが家計を切り盛りしていたのです。」

「今日、大都市で働いている女性の割合はおおよそ37%ですが、考え方は変わっていません。女性は家計を助けるために働き、夫が経済的に「きつい仕事」をするのです。イスラムの戒律では、夫は自分の財産をすべて妻に開示する義務がありますが、その逆はする必要がないのです。」と述べている。

4) 女性は男性より家計に責任を感じている

男女合わせた全対象者のほぼ半数以上が、「女性の方が男性よりもお金に責任を感じている」という文章に「そう思う」と答えた。予想されたことだが、この回答には男女間で差があった。女性では61%が「女性の方がより責任を感じている」と答えたが、男性ではそのように思ったのは40%だけだった。

「そう思う」と答えた割合が最も大きかったのはメキシコで、全体で72%、女性では82%、男性では62%であった。

シンペイトメキシコのマネージングディレクターをつとめるイブリン・ジャビルはこの結果を次のように語っている。「メキシコの女性は一般的に家庭を運営管理する役割を果たしています。彼女たちは公共料金、家賃、クレジットカードの支払、教育費や医療費などを支払っているのです。つまり彼女たちは入ってくるお金と、出て行くお金をしっかり把握しているのです。メキシコの女性は男性を浪費家で、やや無責任だと思う傾向があります。」

シンペイトイギリスの金融・ビジネスリサーチグループのヘッドであるトニー・スミスは、多くの男性が、女性の方がお金に責任を感じているというのが興味深いと述べている(イギリスでは、58%の女性、42%の男性がこの文章に「そう思う」と答えている)。

「女性は男性よりも、お金に責任を感じているということは、別の質問の結果にも見られます。イギリス人女性はパートナーと共同口座を持つことが重要だと思う人の割合が非常に低いのです(女性:48% vs. 男性:62%)。イギリスの女性たちは自分だけで財布の紐を握っていたいのかもしれません。」

多くの女性はお金に対して主導権を握っていたいのだが、また同時に、賭けに出たい女性もいるようだ。全調査対象女性の13%が、経済的に自立するため、または現在の状況を維持するために宝くじやインスタントくじを買っている。

くじを買う女性はオーストラリアで最も多く見られ35%、イギリスでは31%だった。

シンペイトオーストラリアのマネージングディレクターをつとめるジュリー・ビークはこう語る。「オーストラリアの宝くじ市場は成熟しており、多くの人たちがくじを買っています。大当たりして、一夜にして自分の人生を変える夢が生きています。特に現在のように経済の先が見えない時にはなおさらです。」

5)カード使用率が低いのはインドネシア、ブルガリア、マレーシア

クレジットカードに対する気持ちは、その国でクレジットカードの使用が成熟するにつれて、進化する傾向がある。全女性対象者の42%が月収の一部をクレジットカードに使っている。最も使用率が高いのがカナダで77%、フランス72%、アメリカとオーストラリアがともに71%で続いている。反対に、最も使用率が低いのがインドネシアで2%、続いてブルガリア12%、マレーシア19%であった。

クレジットカードに対しては、当初否定的な意見が多かったが、その便利さと恩恵により、非常に魅力的な存在になったとクレア・ブレイバーマンは述べている。「クレジットカードが最初に導入された数十年前、借金は毛嫌いされ、現金が王様でした。クレジットに頼るということは、本来買う余裕がないものを買っていることを意味したのです。」

「クレジットカードが使われ出すと、そのイメージは便利さに変まりました。クレジットカードが定着した国々では、その使いやすさとロイヤルティ・プログラムで、多くの人に受け入れられました。カードの普及が比較的新しい国々では、まだカードから連想される悪いイメージがあります。国民の所得水準の低い国では、人々は債務を負わないようにカードの使用を避けることが多いのです。」

シノベイトの調査では、さらに「2枚以上のクレジットカードを持つことは借金で首が回らなくなることにつながる」という文章について尋ねた。全対象女性の70%が「そう思う」と答え、特にメキシコでは90%の女性がそう答えた。

先述のイブリン・ジャビルはメキシコにおける危機を説明して次のように語っている。「メキシコでは、クレジットカードは信用枠ではなく、‘副収入’のように認識されています。ですから多くの人に危険だと考えられているのです。カードの利率は非常に高く、それだけでも債務のリスクを高めるのです。」

シノベイトについて www.synovate.com

シノベイトはAegis Group plcのマーケティング・リサーチ部門として、世界63カ国に広がるネットワークを駆使し、クライアントに必要なグローバル・サポートと総合的なマーケティング・リサーチ・サービスを提供しております。

[内容のお問い合わせ]

シノベイト株式会社 担当: 山口 真理子

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-19

TEL **03-5408-3853**

FAX **03-5408-3851**

E-mail **japan@synovate.com**